

# 年 報

令和元年度

令和2年5月

公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター



## 序

山形県埋蔵文化財センターは、平成5年に財団法人として創設以来、また平成24年からは公益財団法人として、関係諸機関の御支援・御協力をいただきながら取り組みを進めてまいりました。本年度における当センターの事業については、計画した事業のすべてについて円滑に実施することができました。

その概要について申し上げますと、はじめに、調査事業においては、4遺跡4件の発掘調査と、延べ11遺跡の報告書作成のための整理作業を実施し、6冊の発掘調査報告書を刊行いたしました。

本県における近年の発掘調査の傾向は、県公共事業の減少が引き続き見られ、国による新直轄事業の高速交通網整備に伴う事業もピークを過ぎたことから、現在進められつつある高速道路の県境部分の整備やこれからの県の公共事業等の事業量を的確に把握しつつ、調査体制の整備に努めていかなければなりません。今後とも、責任ある発掘調査を基本とした調査研究に取り組んでまいります。

次に、普及啓発事業につきましては、『考古学&遺跡発掘調査のお仕事参観日』をはじめ、ホームページによる情報発信や調査遺跡における発掘調査説明会の開催、ホームページ上での公開ではありましたが、広報誌『埋文やまがた』の発行などを通して、埋蔵文化財の調査研究の成果を県民の皆さまにお知らせしてまいりました。また、職員を派遣しての講演や体験活動、調査研究発表等は、従来通り実施してまいりました。今後とも埋蔵文化財保護の重要性の周知や、埋蔵文化財を通して古代の人との心の交流の場を県民の皆さんに提供するという基本姿勢を以て、普及啓発事業を推進してまいります。

山形県埋蔵文化財センターでは、これからも「公益」という言葉の重みを職員一人ひとりが胸に刻み、次世代を担う子供達に地域の伝統文化の大切さを伝えるため、あるいは誇りと自信の持てる地域づくりの一助とするため、さまざまな機会を活用して、県民共有の文化遺産としての価値ある埋蔵文化財を後世に伝えて行けるよう、職員一同、一層研鑽を重ねていく所存であります。

令和2年3月31日

公益財団法人山形県埋蔵文化財センター  
理事長 菅間 裕晃

# 目 次

## I. 管理運営概要

1. 沿 革	3
2. 組 織	
(1) 役員及び評議員	3
(2) 職制及び人員	4
(3) 組 織	4
(4) 職 員	5
3. 施 設	6

## II. 事業概要

1. 調査業務	7
(1) 調査遺跡一覧	8
(2) 調査遺跡の概要	
上曾根遺跡（第3次）	10
中関屋遺跡	14
谷地城跡	18
山形城三の丸跡（第21次）	22
2. 普及・啓発・研究等業務	
(1) 研修等	
全国埋蔵文化財法人連絡協議会事業への派遣	24
(2) 普及啓発	
①センター公開事業	24
②考古学講座	25
③来所者	26
④調査説明会	27
⑤職員派遣等	28
⑥資料貸出	31
⑦資料掲載許可	32
⑧研究紀要	33
⑨出版物	33
⑩ホームページ	33
(3) 情報処理	
収蔵図書データベース	33

# I 管理運営概要

## 1. 沿革

山形県には、土地に埋蔵された埋蔵文化財や史跡、有形文化財、民俗文化財などが数多く残されています。これらの文化財は、長い歴史の中で生まれ、育まれ、そして今日まで守り伝えられてきた貴重な県民の文化遺産であり、これを保護・活用し、次世代に確実に継承していくことが大切です。

山形県埋蔵文化財センターは、埋蔵文化財の保護と県土の開発を両立させて調和を図るため、平成5年4月に山形県の出資によって「財団法人」として設立され、平成24年度には「公益財団法人」に移行しました。当センターでは、埋蔵文化財の調査研究を通じて、県民の文化生活の向上と地域文化の振興に寄与することを目的として、

1. 県内遺跡等埋蔵文化財の調査研究
2. 埋蔵文化財の発掘調査
3. 埋蔵文化財の活用と保護思想の普及

の三つを基本とした各種事業を推進しております。

平成27年度に新たに策定された第6次山形県教育振興計画では、『人間力にあふれ、山形の未来をひらく人づくり』を基本目標に掲げ、『「いのち」をつなぐ人』、『学び続ける人』、『地域とつながる人』の三つを目指す人間像としています。埋蔵文化財については、『主要施策15 山形の宝の保存活用・継承』の中で、その保護と活用、ならびに（公財）山形県埋蔵文化財センターとの連携の強化が謳われています。

近年、当センターでは、埋蔵文化財の教育的価値を認識してもらう視点に立って、「発掘調査速報会（県教育委員会と共催）」や「ホームページによる情報提供」、「遺跡（発掘現場）見学や研修の受け入れ」、「考古学講座」の実施などの普及啓発活動についても力を注いでおります。

## 2. 組織

### （1）役員及び評議員

#### 役員

理事長	菅間 裕晃	山形県教育委員会教育長
専務理事	齋藤 稔	財団常勤役員
理事	渋谷 孝雄	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 館長
理事	矢口 俊雄	公益財団法人山形県生涯学習文化財団 専務理事
理事	石川 由美	一般社団法人山形県医師会 事務局長
理事	熊谷 岳郎	山形県教育庁文化財・生涯学習課 課長
監事	柳野 哲郎	税理士有資格者
監事	中川 崇	山形県教育庁総務課 課長

評議員	本間 豊	公益財団法人致道博物館理事（兼）学芸部長
評議員	角屋由美子	公益財団法人米沢上杉文化振興財団 学芸主査
評議員	佐藤 庄一	山形考古学会 会長
評議員	大類 誠	尾花沢市文化財保護審議員
評議員	草苺 信博	特別法人山形県住宅供給公社 専務理事
評議員	早坂 浩也	山形県県土整備部道路整備課 課長
評議員	工藤 哲	山形県農林水産部農村整備課 課長

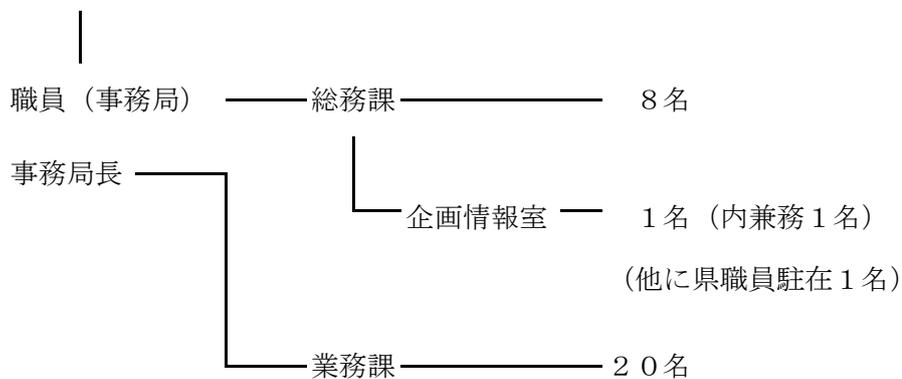
(2) 職制及び人員

事務局長	1名
参事	1名
課長	1名
室長	(1名)
調整主幹	1名
課長補佐	(1名)
総務調整専門員	1名
調査研究専門員	3名
専門調査研究員	5名
主査	1名
主任調査研究員	4名
事務員	3名
調査員	7名
計	28名

(3) 組織

役員 (理事会)

理事長 (非常勤) —— 専務理事 (常勤)



(4) 職 員

課 名	職 名	氏 名	所 属
総 務 課	事務局長 (兼)企画情報室長	黒坂 雅人	財団職員
	参事(兼)総務課長	荒木 歩	財団職員
	総務調整専門員	原田 英明	財団職員
	総務主査	高桑 弘美	財団職員
	課付専門調査研究員	齋藤 健	財団職員(震災復興派遣)
	事務員	片平 玲子	
	事務員	板垣美智子	
	事務員	川上ひろ子	
企画情報室	駐在(埋蔵文化財調査研究員)	(鈴木 良仁)	(教育庁 文化財・生涯学習課)
業 務 課	課 長	伊藤 邦弘	財団職員
	調整主幹(兼)課長補佐	須賀井新人	財団職員
	調査研究専門員	齊藤 主税	財団職員
	調査研究専門員	氏家 信行	財団職員
	調査研究専門員	小林 圭一	財団職員
	専門調査研究員	植松 暁彦	財団職員
	専門調査研究員	菅原 哲文	財団職員
	専門調査研究員	高桑 登	財団職員
	専門調査研究員	水戸部秀樹	財団職員
	主任調査研究員	大場 正善	財団職員
	主任調査研究員	草野 潤平	財団職員
	主任調査研究員	天本 昌希	財団職員
	主任調査研究員	渡辺 和行	財団職員
	調査員	安達 将行	
	調査員	吉田 満	
	調査員	色摩 優吾	
	調査員	加藤津奈樹	
	調査員	廣瀬 美紀	
調査員	白戸このみ		
調査員	板橋 龍		

### 3. 施設

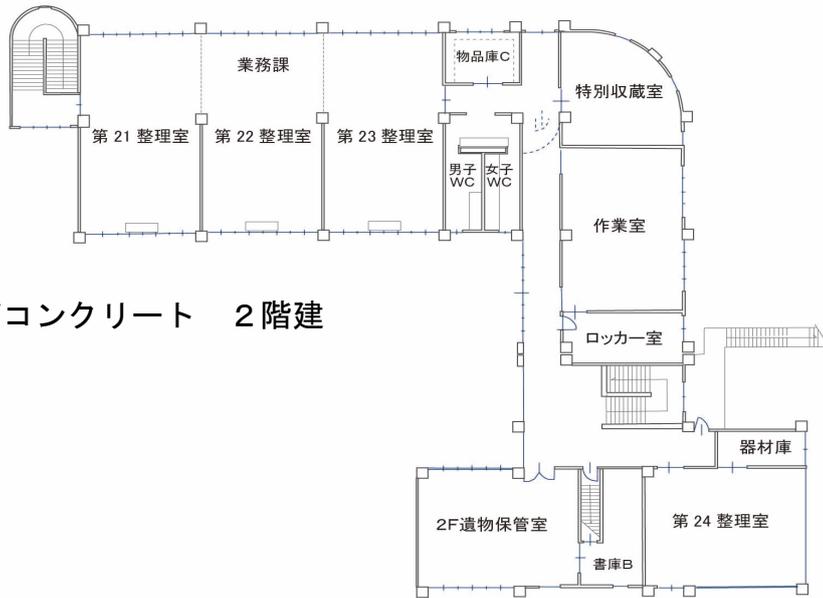
公益財団法人山形県埋蔵文化財センターは、平成24年11月末まで、山形県上山市弁天二丁目15番1号にて業務を行ってきたが、施設の老朽化と防災上の問題のため、同年12月1日より、山形県上山市中山字壁屋敷5608番地に移転した。

現在当所の施設は、以下の通りとなる。

公益財団法人  
山形県埋蔵文化財センター 施設図

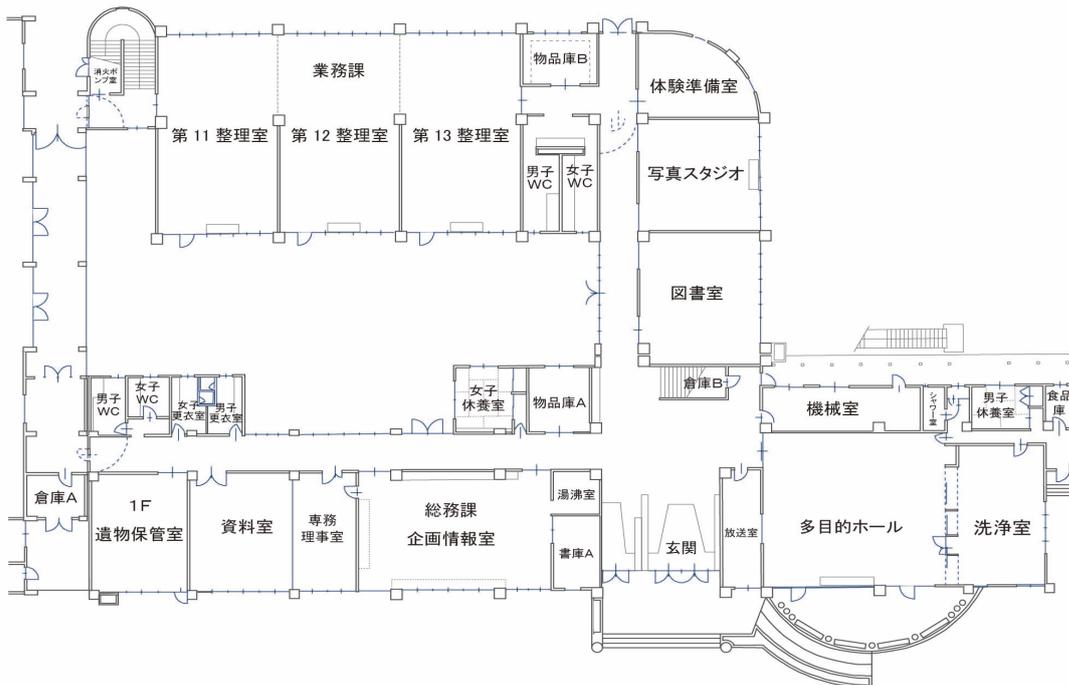
(S=1 : 400)

#### 2階



鉄筋コンクリート 2階建

#### 1階



## II 事業概要

### 1. 調査業務

令和元年度は、国土交通省、河北町および山形県から委託を受け、道路建設と新庁舎建設、新庄病院改築に先だつての発掘調査と整理作業を実施しました。

発掘調査は4遺跡4件について行い、総調査面積は9,540 m<sup>2</sup>になります。出土品は、土器等85箱が出土文化財の認定を受けました。

報告書作成のための整理作業は延べ11遺跡について実施し、そのうち6遺跡6冊の発掘調査報告書を刊行しました。

## 令和元年度 発掘調査遺跡

- 1 かみそね  
上曾根遺跡(第3次)
- 2 なかせきや  
中関屋遺跡
- 3 やちじょう  
谷地城跡
- 4 やまがたじょうさんまる  
山形城三の丸跡(第21次)



※本書中の「調査遺跡の概要」の記述内容は概要の報告であり、発掘調査報告書の刊行をもって本報告となります。

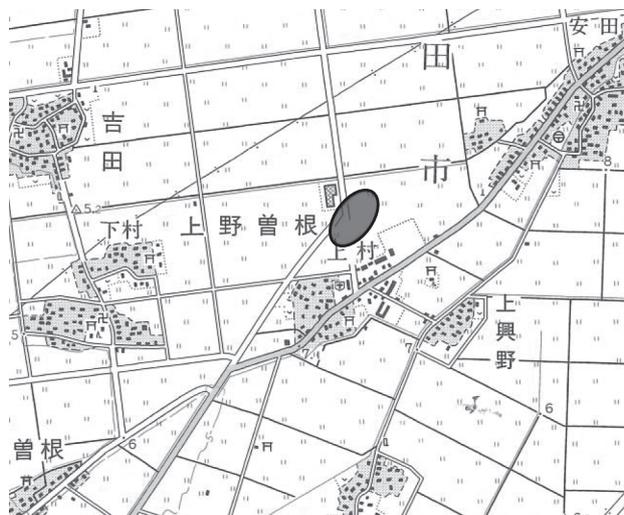
(1) 調査遺跡一覧

NO.	遺跡名	所在地	主な時代	遺跡の種別	調査期間
1	上曾根遺跡 (第3次)	酒田市	奈良・平安	集落跡	6月4日～12月6日
2	中関屋遺跡	新庄市	奈良・平安	集落跡	6月17日～8月27日
3	谷地城跡	河北町	中世・近世	城館跡	5月7日～8月16日
4	山形城三の丸跡 (第21次)	山形市	奈良・平安 中世・近世	集落跡・城館跡	5月8日～6月28日
5	山形城三の丸跡 (第9・11・13・14・ 16・18・20次)	山形市	縄文・平安 中世・近世	集落跡・城館跡	
6	清水遺跡 (第1～7次)	村山市	奈良・平安 中世・近世	集落跡	
7	羽黒神社西遺跡 (第1・2次)	村山市	縄文・平安	集落跡	
8	東熊野苗畑遺跡	村山市	奈良・平安	集落跡	
9	八幡西遺跡 (第1・2次)	川西町	奈良・平安・近世	集落跡	
10	川前2遺跡	山形市	古墳・奈良・平安	集落跡	
11	野田遺跡	遊佐町	縄文・奈良・平安	集落跡	
12	下中瀬遺跡	遊佐町	奈良・平安・近世	集落跡	

調査面積 ：平方m	文化財認 定数：箱	起回事業<委託者>	業務内容			調査経費 ：円
			発掘	整理	報告書	
5,400	61	一般国道344号道路改良〈県土木整備部〉	○	○	—	95,157,700
1,840	8	山形県立新庄病院改築整備〈県病院事業局〉	○	○	○	41,206,000
2,200	10	河北町役場新庁舎建設〈河北町〉	○	○	○	49,507,700
100	6	一般国道112号霞城改良〈国土交通省〉	21次	○	○	61,843,100
		一般国道112号霞城改良〈国土交通省〉		○	○	
		東北中央道(東根～尾花沢)〈国土交通省〉	—	○	○	46,783,000
		東北中央道(東根～尾花沢)〈国土交通省〉	—	○	○	62,397,500
		東北中央道(東根～尾花沢)〈国土交通省〉	—	○	○	22,333,300
		一般国道113号梨郷道路〈国土交通省〉	—	○	○	24,585,000
		須川河川改修〈国土交通省〉	—	○	○	17,648,400
		日本海沿岸東北自動車道(遊佐～象潟) 〈国土交通省〉	—	○	○	25,686,100
		日本海沿岸東北自動車道(酒田みなと～遊佐) 〈国土交通省〉	—	○	○	
9,540	85					447,147,800

# かみそね 上曾根遺跡 (第3次)

遺跡番号 204-076  
調査回数 第3次  
所在地 山形県酒田市上野曾根字上中割  
北緯・東経 38度56分45秒・139度53分17秒  
調査委託者 山形県庄内総合支庁建設部道路計画課  
起因事業 一般国道344号道路改築事業(安田バイパス)  
調査面積 5,400㎡  
受託期間 平成31年4月1日～令和2年3月31日  
現地調査 令和元年6月4日～12月6日  
調査担当者 齊藤主税(現場責任者)・高桑 登・加藤津奈樹  
調査協力 酒田市教育委員会・山形県庄内教育事務所  
遺跡種別 集落跡  
時代 奈良時代・平安時代・近世  
遺構 掘立柱建物跡・柱列・井戸跡・土坑・柱穴・溝跡  
遺物 土師器・須恵器・陶磁器・木製品・石製品・古銭(文化財認定箱数:61箱)



遺跡位置図(1:25,000)

## 調査の概要

上曾根遺跡は、酒田市上曾根地区に所在する。河岸低地の東西に延びる自然堤防(微高地)上に立地し、標高は約7.5mを測る。遺跡は、1986年と1988年に農村基盤総合整備事業や道路改良事業などに伴い県教育委員会が主体となり第1次・2次発掘調査を実施した。

## 遺構と遺物

今回の調査では、調査区全体から奈良・平安時代の掘立柱建物跡や柱穴群・井戸跡・土坑・柱列・溝跡などが

検出された。遺構の中からは土師器・須恵器や木製品等が多数出土している。

1980年代の第1次調査・2次調査では掘立柱建物跡5棟・井戸跡6基・土坑34基・溝跡15条・塚3基・柱穴多数が検出されている。調査した井戸跡からは井戸枳材や柄杓・箸などが出土した。これらのほとんどが平安時代9世紀後半以降である。この他に中世の井戸跡や土坑、近世の溝跡も検出されている。出土した木製品は年輪年代測定法により1003年の柄杓、1276年の曲げ物底板の年代が得られている。中世の土坑からは2か所に人面線刻画が描かれた「砥石」が出土し注目された。この他に3基の塚状遺構が調査されたが遺物が出土しておらず時代・性格ともに不明である。

今回の調査で検出されたSB163掘立柱建物跡は2間×3間(5m×7m)の規模である。これらの他に楚板を伴う柱穴等が幾つも検出され、SB163以外にも建物跡が存在したことは確実であるが何棟存在していたかは不明である。井戸跡は3基が検出されている。それぞれに齋串と呼ばれる「穢れを払う呪いの道具」としての木製品が出土している。特に井戸跡SE123では特徴的な同一形態の齋串が多数出土している。長さは20cm前後、

幅 1 cm、小角材～板材の上下両端を斜めにカットした形である。この形態の県内出土例では齋串の一種として僅かに出土するが主体となり出土する遺構は少ない。現在までの資料調査によると山陰地方から北陸地方など日本海側に広く分布しているものと推定される。他 2 基の井戸からも齋串が少量出土しているが、その形態は板状品で両側面に上下からササラ状の切り込みが入るものや、串状・棒状の齋串で出土例が多いものである。調査区の北側からは柱列が検出されている。直径 15 cm から 20 cm 程の規模で 36 基が南北に並列して検出された。調査区中央部では SD2 溝跡や SD159 溝跡が検出されそ

の幅は 14 m 程を測る。北から南へ延びて、やや西側に曲がる。溝の幅は 1m ～ 1.5m 前後で 9 世紀後半遺構の遺物が出土している。道路跡の可能性はある。

#### まとめ

調査の結果、奈良時代後半から平安時代の 8 世紀後半～9 世後半の集落跡、近世の溝跡を中心とした集落跡が検出された。齋串などの木製品が数多く出土し、当時の祭祀の様相を知る上での貴重な資料が得られた。

上曾根遺跡の 3km 東には人面墨描土器や大型齋串の出土した「俵田遺跡」、北東 3 km には平安時代の国府跡「城輪柵」が所在しており関連が窺われる。



写真 1 調査区全景（南西から）



写真 2 SA152 柱列（南から）



写真 3 SB163 掘立柱建物跡（北西から）



写真4 SE123 土層断面 (東から)



写真5 SE123 斎串出土状況 (南東から)



写真6 SE126 土層断面 (東から)



写真7 SE126 斎串出土状況 (南西から)

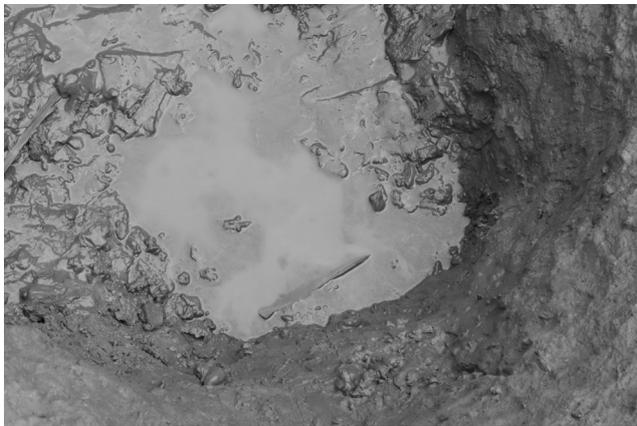


写真8 SK213 斎串出土状況 (西から)



写真9 SK52 遺物出土状況 (北から)



写真10 SX3 遺物出土状況 (北から)



写真11 SX3 墨書土器出土状況 (東から)

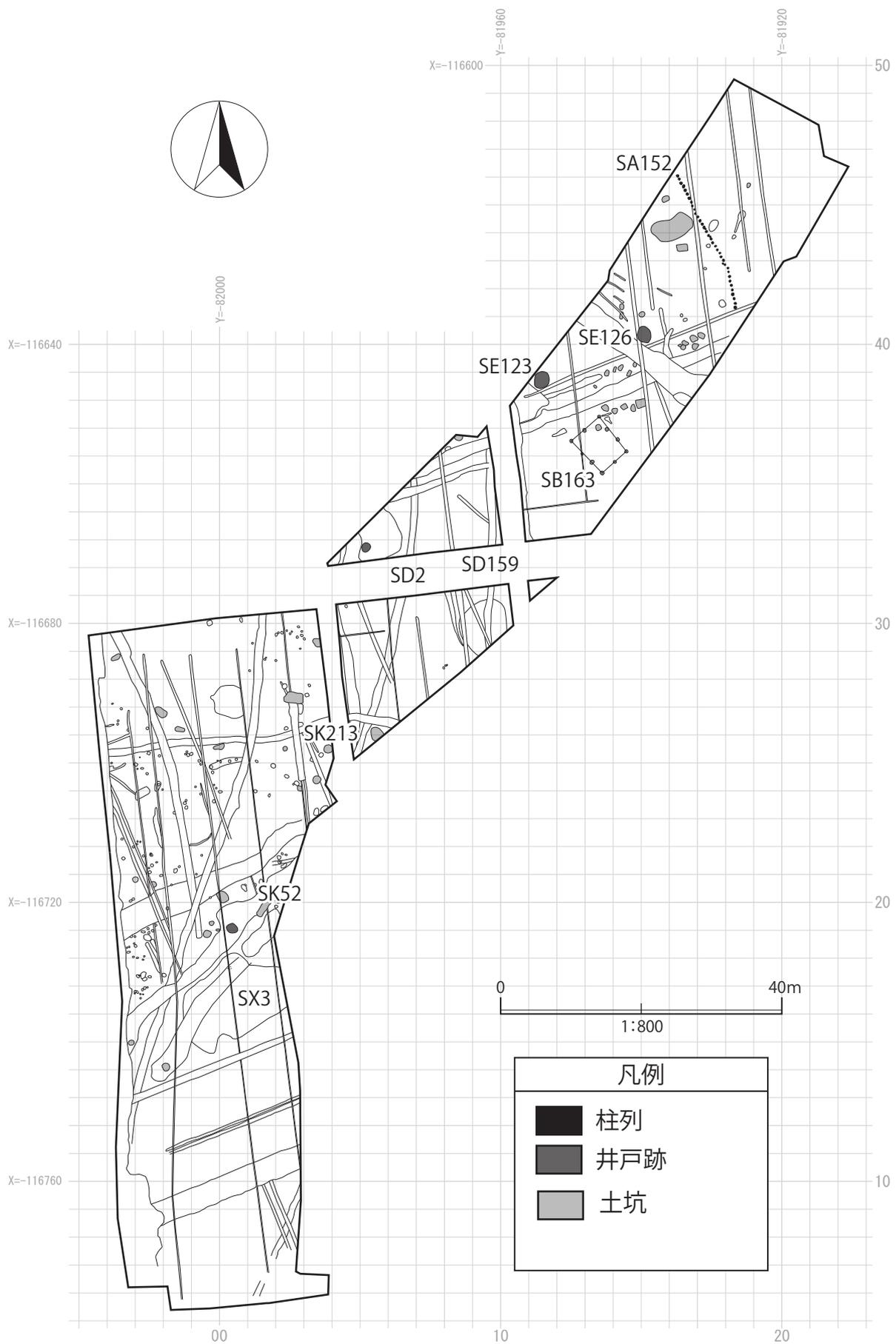
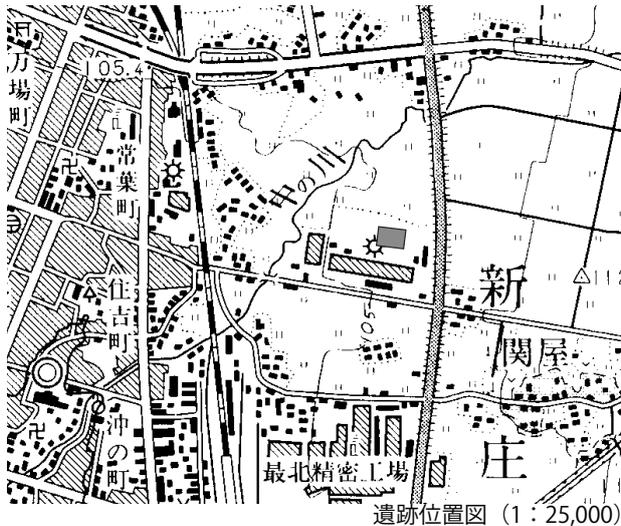


图1 遺構配置図(S=1:800)

# なかせきや 中関屋遺跡

遺跡番号	205-128
調査回数	第1次
所在地	山形県新庄市大字金沢字中関屋
北緯・東経	38度46分06秒・140度18分35秒
調査委託者	山形県病院事業局県立病院課
起因事業	山形県立新庄病院改築整備事業
調査面積	1,840 m <sup>2</sup>
受託期間	平成31年4月1日～令和2年3月31日
現地調査	令和元年6月17日～8月27日
調査担当者	菅原哲文（現場責任者）・廣瀬美紀
調査協力	新庄市教育委員会・山形県最上教育事務所
遺跡種別	集落跡
時代	平安・縄文
遺構	掘立柱建物跡・溝跡・土坑・柱穴・ピット
遺物	縄文土器・石器・須恵器・土師器・銭貨（文化財認定箱数：8箱）



## 調査の概要

中関屋遺跡は、新庄市大字金沢字中関屋に所在する。最上川に合流する升形川の支流・中の川の左岸に立地し、標高は約107～108mを測る。山形県立新庄病院改築整備事業に伴い、平成30年に試掘調査を行った結果、新たに発見された遺跡である（図1）。先行して調査を開始した地区を1区とし、ボーリング調査にかかるため7月から着手した地区を2区とした。

## 遺構と遺物

平安時代の遺構として、掘立柱建物跡3棟、溝跡、

土坑、柱穴、ピットなどが確認された（図2参照）。

SB8 掘立柱建物跡は、2×2間の総柱と推定される。規模は4.2mの正方形である。また、SD1 溝跡に切られていることから、SB8の廃絶後に溝で囲まれた新しい集落ができたと考えられる。SB23 掘立柱建物跡の規模は、南北3間・東西2間、5.4m×4.6mである。また、東側に柱穴群が見られることから、建て替えや、別の建物跡が存在する可能性がある。SB42 掘立柱建物跡は現代の攪乱で切られており、2×2間以上、5.6m×4.0m以上の規模と推定される。SB8とSB42は建物の主軸方向が類似しており、同時期に建っていた可能性がある。またSB23は建物の軸線が溝跡と一致していることから、SB8・SB42より後出の新しい段階の建物の可能性がある。

SD1 溝跡は1区北側から2区西側にかけて検出され、幅90～130cm、深さ25～35cmほどの規模である。溝は集落跡を取り囲むようにめぐり、溝の北側や西側には遺構の分布はほとんど認められない。

遺物は主に須恵器・土師器などが出土し、9世紀第2四半期から第3四半期頃のものと思われる。捨て場と思われるSK20・21土坑は覆土に焼土を多く含み、須恵



写真1 調査区全景（北から）

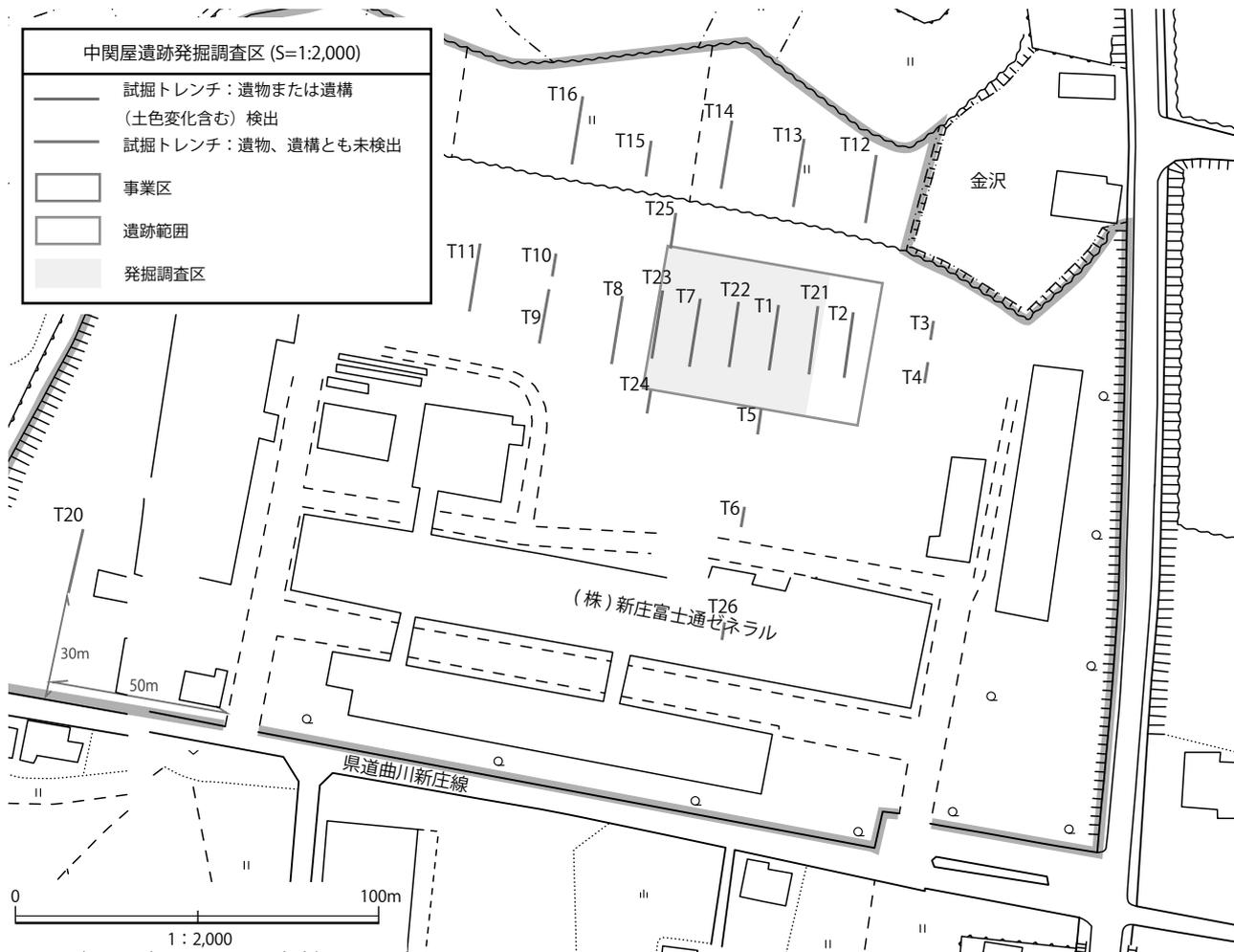


図1 調査区概要図

器・土師器片などが出土している。SK20からはてんようけん転用硯と思われる須恵器の蓋も出土した。SP41 柱穴からはほぼ完形の土師器の坏が出土し、柱を抜いた後に意図的に入れられた可能性がある。

須恵器・土師器以外の遺物として、SK22 土坑から銭貨が出土した。腐食のため銭種の特定はできなかった。また SB42EP47 柱穴底の下層からは縄文土器が出土し、溝跡からは剥片と石皿、SK22 からは石皿が出土した。縄文土器は前期初頭の深鉢で、石器はこの時期に伴うものと推定される。縄文土器が出土した層は、平安時代の遺構検出面より約 30 cm 下の暗褐色砂質シルト層中で、層厚は約 20 cm である。縄文土器の出土はこの地点のみで、他の遺構からは出土しなかった。平安時代の遺構面の下に縄文時代の遺構面が存在した可能性がある。

### まとめ

調査の結果、掘立柱建物跡を中心とした平安時代の集

落跡の様相が明らかになった。調査区は集落の北西隅と思われる、集落の中心地はより南や東側に存在していたと考えられる。周辺地域の集落の様相をみると、竪穴住居跡が主であり、それに掘立柱建物跡を伴う在り方が認められる。中関屋遺跡では掘立柱建物跡のみの検出であるが、調査区外に竪穴住居跡が存在していた可能性が考えられる。

転用硯や銭貨が出土したことから、文字を扱い、貨幣を保有していた人の存在がうかがわれる。また平安時代の土坑である SK22 から出土した石皿は、縄文時代のものをカマドの骨組みなどとして二次的に利用し、その後廃棄されたものと思われる。

新庄市では奈良・平安時代の調査遺跡が少なく不明な部分が多かったが、今回の調査で当地域の平安時代の集落の具体像が明らかとなった。

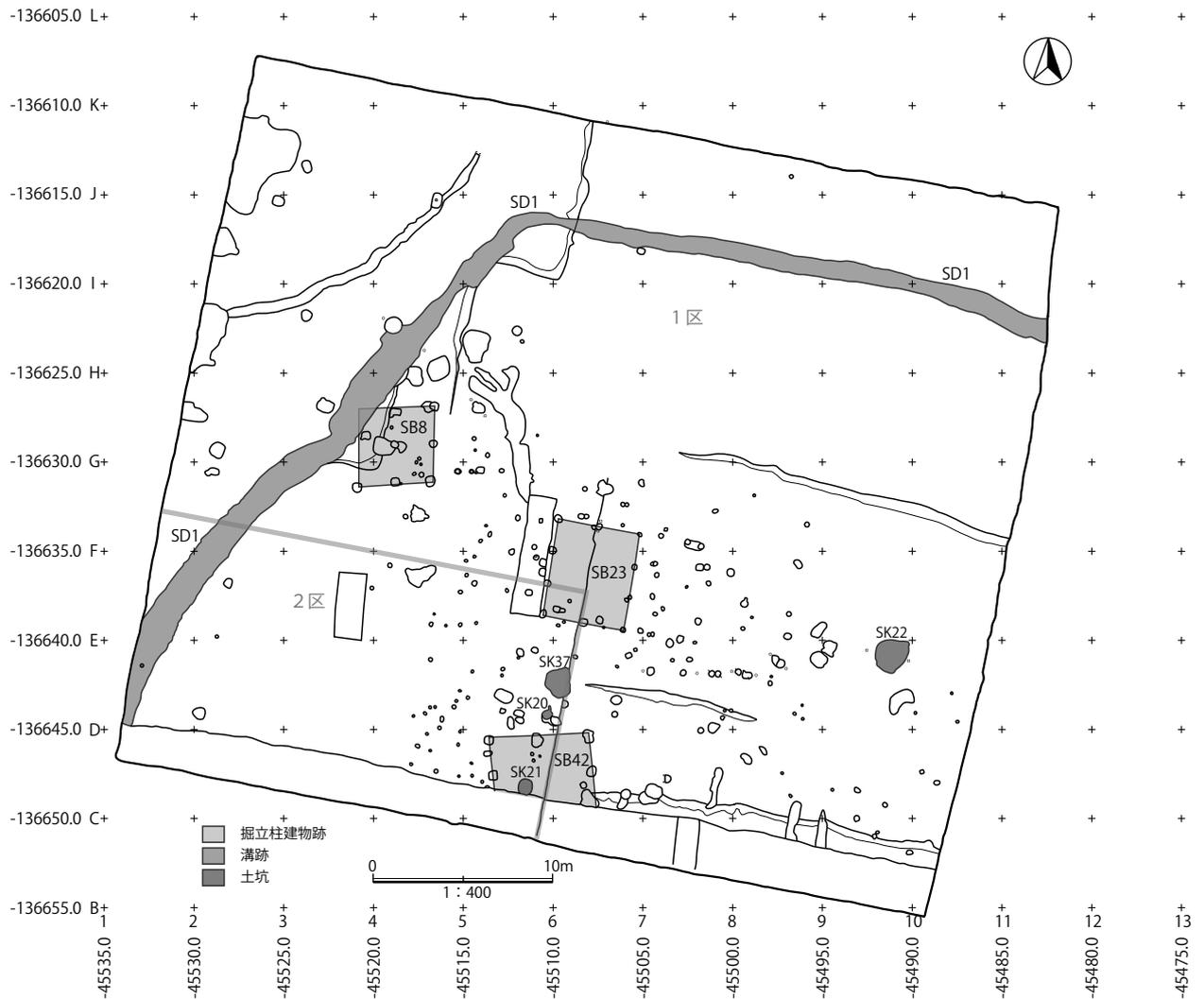


図2 遺構配置図



写真2 SB8 掘立柱建物跡完掘状況 (東から)



写真3 SB23 掘立柱建物跡完掘状況 (東から)



写真4 SB42 掘立柱建物跡完掘状況 (北から)



写真5 SD1 溝跡完掘状況 (東から)



写真6 SK20 土坑遺物出土状況 (北西から)



写真7 SP41 柱穴断面 (南東から)

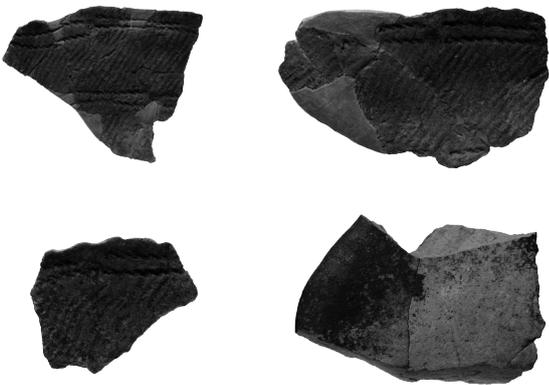


写真8 出土した縄文土器と石器



写真9 出土した須恵器・土師器

# やちじょう 谷地城跡

遺跡番号 321-051  
調査回数 第1次  
所在地 山形県西村山郡河北町字谷地  
北緯・東経 38度25分35秒・140度18分52秒  
調査委託者 河北町教育委員会生涯学習課  
起因事業 河北町役場新庁舎建設  
調査面積 2200 m<sup>2</sup>  
受託期間 平成31年4月1日～令和2年3月27日  
現地調査 令和元年5月7日～8月16日  
調査担当者 天本昌希（現場責任者）・渡辺和行  
調査協力 河北町新庁舎建設課・升川建設株式会社・山形県村山教育事務所  
遺跡種別 城館跡  
時代 中世・近世  
遺構 掘立柱建物跡・ピット・溝状遺構  
遺物 陶磁器・漆器・石製品（文化財認定箱数：10箱）



遺跡位置図 (1 : 50,000)

## 調査の概要

谷地城跡は、河北町の中心市街地に展開する中近世の城館跡で、寒河江川扇状地の端部に立地する。今回の調査は、町役場の建設事業に伴い実施された。調査区は、建物面積 2200 m<sup>2</sup>を調査している。

## 遺構と遺物

今回の調査は、谷地城跡で行われるはじめての大規模な発掘調査である。検出遺構は、掘立柱建物 5 棟、ピット 522 基、溝状遺構 28 条、土坑 22 基を検出している。出土遺物は中世から近世の陶磁器や木製品など整理箱で

10 箱ほど出土している。

掘立柱建物跡は SB60～64 まで、5 棟検出している。SB60 は調査区北側に独立して立地しているが、他は西側に寄り、SB61 と 62、SB63 と 64 がそれぞれ同軸で近接するため、同じ建物となるかもしれない。これら以外のピットは、規格的に並ばず、掘立柱建物として組みなかった。

多くのピットには、礎盤構造がみられる。礎盤には、木材を複数並べたものが多く用いられ、それらには径数 cm 程度の樹皮のついたままの枝、薪のように粗割りしただけの分割材、廃棄された建築部材などが用いられている。用いられる樹種を同定するには至らないが、目視で確認できる限り、統一的なものはなく複数の樹種が用いられている。枝に残る樹皮から桜と判断できるものはいくつかみられた。礎盤には木材のほか、拳大の円礫を敷き詰めて根石としたものもみられる。これらは木材のものとは比べると、地区も限定的で、大部分が SB61、62 として組めるものになる。一方、枝材のものは調査区全面に多数検出するも、建物を組めないものや単独で検出しているものが多い。

こういった礎盤の目的や使用方法については、SP1064 や SP1145 で残存する柱材の下に木材を並べた

状況を検出しており、柱の沈下防止のための措置と解釈できる。遺跡の立地する寒河江川扇状地の端部の安定しない地盤への対応と考えられる。このような工法が低地への対応として、全国的にどの程度一般的なものであったのかは定かではない。類例は2014年に調査された山形城三の丸第14次調査、0-3区SK1984に1か所見られる(当センター240集)。

溝状遺構は、調査区の東西に展開するSD2とSD3を中心に28条検出している。東西に展開するものはN-65°~75°-Wに、南北に展開するものはN-17°~20°-Eに収まる近似した主軸を持つものが多い。それぞれ組み合わせさせて区画を作り出していたものと考えられる。これらはすべて同時期のものではなく、重複関係から時期差がうかがえる。溝状遺構には、幅2~4m程度のものと、幅1m未満のもの2種類がある。断面は逆台形で、底面は上がり下がりを経ているものが多い。出土遺物の多くは、これらの溝状遺構から出土したものが大部分を占める。

出土した遺物について、主なものは陶磁器、木製品、石製品、古銭である。陶磁器類は中世から近世に属するもの、特に16世紀から17世紀にかけての遺物が多く、輸入磁器の青磁や青花、国産陶器の瀬戸美濃、肥前陶磁器がみられる。それ以前のものとしては13世紀後半から15世紀にかかる輸入磁器や、珠洲の播鉢や甕、他に古瀬戸後期の筒形容器や瓶類、盤もしくは折縁深皿の破片、在地で作られたとみられる瓷器系陶器がみられる。木製品では漆器椀・皿、木皿、曲物の部材、<sup>ざる</sup>笊などの食物の供膳や加工に係るもの、下駄や横櫛といった日用品、年貢米に係る可能性のある木簡などが出土している。石製品には、石塔の相輪があり、類似したものが寒河江市にある上の寺遺跡から出土している。ほか、硯、砥石、凹石、茶臼も出土している。古銭は北宋銭が多く、次いで明銭が多い。一括して出土するものも多く、SD3溝状遺構では25枚がまとまって出土している。寛永通宝など近世のものは1枚も出土していない

### まとめ

調査の結果からは、遺構の重複関係、出土遺物の年代、炭素年代測定結果などから考えて、いくつかの時期差がみられた。前半のものでは、SD2溝状遺構とSD46溝状遺構で区画されるもので、出土遺物や炭素年代の測定値

から15世紀中頃~16世紀中頃が想定できる。これまでの文献史上の研究では、16世紀中頃まで谷地地区に開発は及んでいないとされてきたが、これを大きく遡る結果となった。

後半のものは、SD3溝状遺構で区画されるもので、16世紀中頃~17世紀前半と考える。SD3は調査区の北側を東西に横断し、エネルギー棟区で南方向に折れる。重複関係からはSD2などに後続する。出土遺物は、15世紀後半~16世紀中頃の貿易陶磁や瀬戸美濃の大窯I~II期の皿が複数みられる。これらに続く16世紀末~17世紀前半代の国産陶磁器もいくつかあり、唐津の皿や肥前磁器などがある。これらは前者に比べ、覆土の上層や確認面で出土しているものが多い。木製品の炭素年代測定でも近似した値が得られている。このような年代観は、従来考えられてきた谷地城の築城の時期と廃城の時期に整合的な結果といえよう。また、根石を詰めたピットで構成される掘立柱建物は、重複関係からSD3の時期よりもあとのものといえるが、出土遺物や炭素年代の測定値からは、17世紀代で収まるものである。

これまでの研究において示されてきた谷地城の復元案では、二の丸が本丸を取り囲むように区画する姿を想定している。復元案よると今回の調査区は、二の丸の西堀が南北に縦断する場所にあたる。しかし、実際に検出したものは、東西方向に伸びるSD2やSD3といった、幅2~4m程度の溝状遺構であった。これらが城館を区画する堀として考えるには、幅が狭く、断面形が薬研になるでもない。旧地表面の高さを勘案しても深さは1mに満たないであろう。これを「堀」とするには疑問を覚える。何より本丸方向の東西方向に伸びるのであれば、その用をなさないように思える。今回の調査区だけでは、溝状遺構が全体として方形の区画をなすのか、あるいはクランクして終わるのかは判断できない。また、その機能が二の丸内に展開する個別の屋敷地の地境としてのものなのか、これら自体が二の丸堀の補助的な区画をなすものであったのかは、今後の調査の進展に委ねられよう。

本調査によって、従来考えられてきた谷地城の姿は、再考を求められる結果となったといっていよう。本来の二の丸の区画や谷地城全体の姿を明らかにするためには、今後もさらなる発掘調査の積み重ねが必要である。

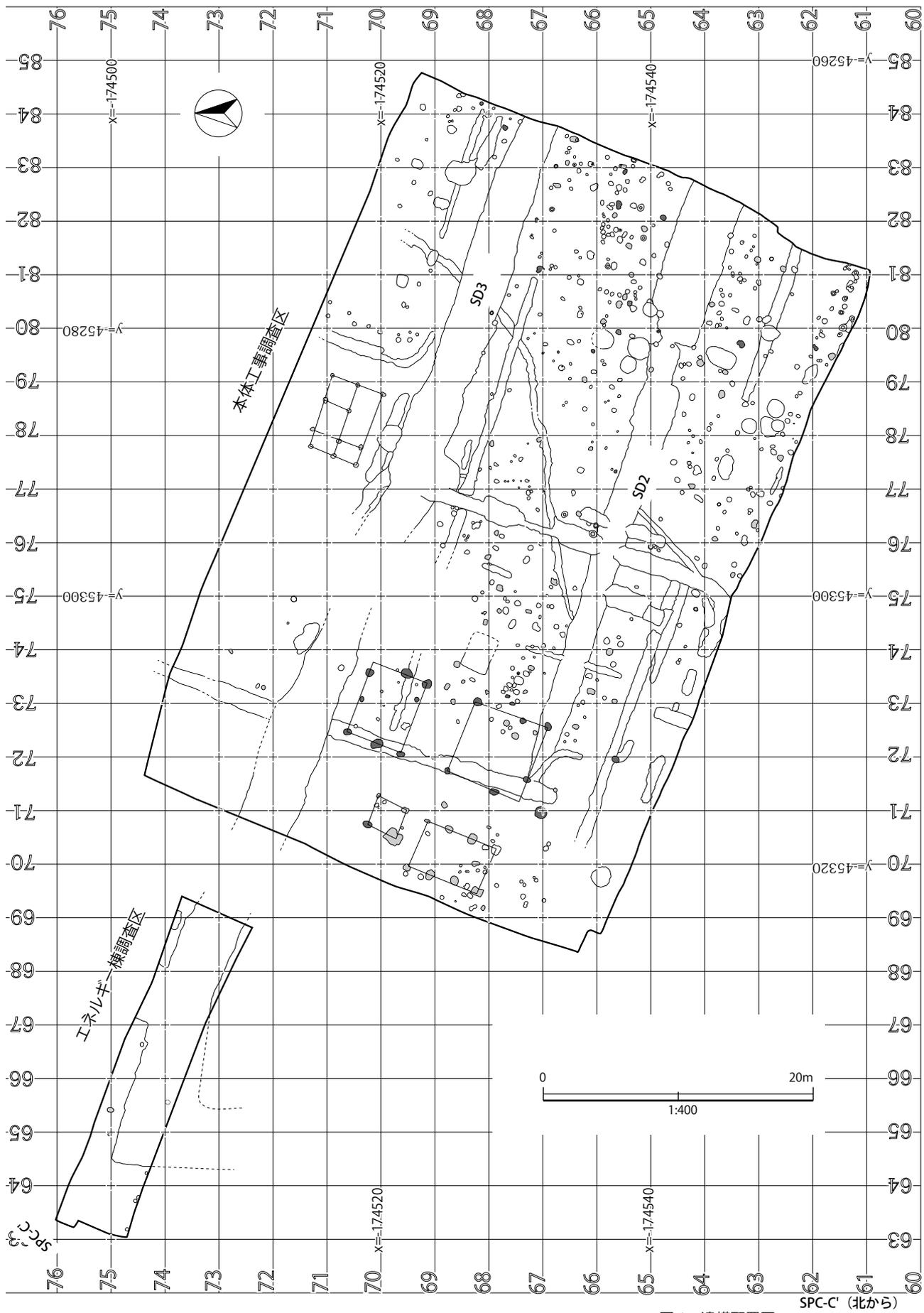


図1 遺構配置図



写真1 掘立柱建物跡検出状況（北東から）



写真2 SP1064 調査状況（北から）



写真3 SP1229 断ち割り（南から）



写真4 SP1250 調査状況（南から）



写真5 SD2 溝状遺構（南東から）



写真6 ざる出土状況（南から）



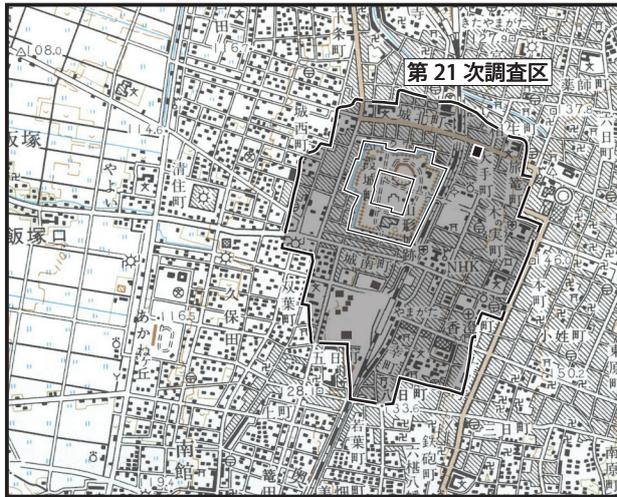
写真7 SD3 溝状遺構エネルギー棟区（西から）



写真8 調査区周辺空撮（南西から）

やまがたじょうさんのまるあと  
山形城三の丸跡 (第 21 次)

遺跡番号 201-003  
調査回数 第 21 次  
所在地 山形県山形市大手町  
北緯・東経 38 度 15 分 29 秒・140 度 20 分 05 秒  
調査委託者 国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所  
起因事業 一般国道 112 号霞城改良事業  
調査面積 100 m<sup>2</sup>  
受託期間 平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日  
現地調査 令和元年 5 月 8 日～6 月 28 日  
調査担当者 小林圭一 (現場責任者)・高桑 登・色摩優吾  
調査協力 山形市上下水道部・山形市教育委員会・山形県村山教育事務所  
遺跡種別 集落跡・城館跡  
時代 近世・近代  
遺構 溝跡・土坑・柱穴・河川跡  
遺物 土師器・陶磁器・石製品 (文化財認定箱数：6 箱)



遺跡位置図 (1 : 50,000)

### 調査の概要

山形城三の丸跡は、霞城公園のある山形城 (本丸・二の丸) を取り囲む東西約 1.6km、南北約 2km の広大な城館跡で、文禄・慶長年間 (1592～1615 年) に最上氏第 11 代当主の最上義光が、三重の堀を構えた城郭として整備したと言われており、国内では 5 番目の広さで、奥羽地方では最大の城であった。しかし、最上氏は元和 8 年 (1162 年) に第 13 代義俊が改易され、それ以降鳥居氏から水野氏まで藩主が転封・入部を繰り返す、石高も 57 万石から 5 万石まで削減された。そのため、しだいに広大な山形城を維持することが困難となり、手入

れが行き届かず、幕末期の水野氏 5 万石時代には三の丸のほとんどが水田や畑になっていたと言われている。

今回の発掘調査は、国道 112 号の霞城改良工事に起因するもので、平成 23 年度の第 9 次調査、24 年度の第 11 次調査、25 年度の第 13 次調査、26 年度の第 14 次調査、27 年度の第 16 次調査、28 年度の第 18 次調査、29 年度の第 20 次調査に続いて実施されたもので、P 6 区 (第 20 次調査区の西隣) の発掘を実施した。また、今年度の発掘調査をもって国道 112 号拡張工事に起因する調査は終了となる。

### 遺構と遺物

主な遺構は、調査区の南側で石組遺構 (SX2710) を検出した。調査区の大部分は河川からの流れ込みの河原石で覆われており、そうした石を配置し、中を掘り込んで石組の施設が構築されている。南北に 1.6 m、東西に 1.1 m を測り、具体的な用途は不明だが、水路や洗い場として利用されたと考えられる。また、調査区の中央部分では近代からの攪乱 (SX2701) を受けていた。

主な遺物は、石組水場遺構に集中しており、遺構内からは 18 世紀後半から 19 世紀にかけての磁器などが出土した。内訳は碗が 9 点、皿、播鉢、砥石がそれぞれ 1 点ずつ出土している。磁器は主に肥前 (現在の佐賀県) で焼かれたもので完形に近い状態の磁器碗も出土してい

る。また、北側の遺構（SK2702）とその周辺からは、かわらけが2点出土している。

### まとめ

今回検出した水路跡や水場跡は、第20次調査でも同じような水場遺構が見つかっており、今回の調査区はその延長上となっている。

今回の調査では、遺構・遺物ともに18世紀後半から19世紀にかけての比較的新しいものが中心となったが、2011年から始まった山形城三の丸跡の全体をみると、江戸時代に武家屋敷が形成される以前から古代において人々の生活が確認され、近代の山形市の都市形成につながっていったと考えられる。



図1 遺構配置図



写真1 石組水場遺構 (SX2710)



写真2 石組水場遺構より出土した遺物（磁器と砥石）

## 2. 普及・啓発・研究等業務

### (1) 研修等

全国埋蔵文化財法人連絡協議会事業への派遣

#### ア 総会

期 日 令和元年6月13日～6月14日  
会 場 山形県酒田市（ガーデンパレスみずほ）  
派遣職員 専務理事 齋藤 稔、事務局長 黒坂雅人、参事 荒木 歩  
業務課長 伊藤邦弘、調整主幹 須賀井新人、  
専門調査研究員 植松暁彦、高桑 登、水戸部秀樹

#### イ ブロック会議

期 日 令和元年10月24日～10月25日  
会 場 岩手県奥州市（水沢グランドホテル）  
派遣職員 事務局長 黒坂雅人、参事 荒木 歩、専門調査研究員 高桑 登

#### ウ 研修会

期 日 令和元年12月12日～12月13日  
会 場 京都府京都市（ホテルルビノ京都堀川）  
派遣職員 調整主幹 須賀井新人、専門調査研究員 植松暁彦

### (2) 普及啓発

#### ①センター公開事業

##### ア なつやすみ「子どもミュージアム」

平成29年度より、埋蔵文化財センター単独事業として実施している。  
センターが保管している各時代の代表的な出土品を展示した。  
併せて、体験活動を取り入れて実施した。

期 間 令和元年8月7日（水）～8月16日（金）  
会 場 山形県埋蔵文化財センター  
内 容 展示：「昔むかしのくらし体験!!」  
体験：火起こし、弓矢、ミニ発掘体験

入場者数 23名



弓矢体験



ミニ発掘体験



火起こし体験

##### イ 考古学&遺跡発掘調査のお仕事参観日

平成27年度まで実施してきた「埋蔵文化財センター参観デー『埋文まつり』」に代わるもの  
から実施している。タイトルに「参観日」とあるように、普段のセンター業務の公開をメインに、  
の解説や勾玉作り体験を行った。

期 日 令和元年11月24日（日）  
会 場 山形県埋蔵文化財センター  
内 容 整理作業の公開、出土品の展示・解説、勾玉作り等

入場者数 60名



琥珀の勾玉作り



展示遺物の解説



石器に触れる体験

ウ 令和元年度 国宝土偶講演会&山形県発掘調査速報報会 2019  
山形県教育委員会主催、(公財)山形県埋蔵文化財センター共催

期 日 令和2年3月8日(日)  
会 場 山形県生涯学習センター 遊学館

※山形県教育委員会より新型コロナウイルス感染症対策のため  
中止との通知を受けて中止となった。当日配布予定の資料と、  
報告予定4遺跡の出土遺物や出土状況の写真をホームページ  
で公開した。

②考古学講座

ア 特別講演会

職員研修としての講演会を一般にも公開し、「考古学講座」として以下の計画を立てた。

期 日 令和2年年3月6日(金)  
会 場 山形県埋蔵文化財センター  
内 容 演題：『東北地方中南部地域における緑色石英製の玉類の生産と流通について』  
講師：三澤裕之氏(山形県総務部学事文書課)

※新型コロナウイルス感染症対策のため中止とした。

イ センター談話会

センター職員による個人研究の発表会の場として、一般の方にも呼び掛けて計画を立てた。

期 日 令和2年3月5日(木)・3月12日(木)  
会 場 山形県埋蔵文化財センター  
テーマ 第1回『3D写真計測の利用について 発掘調査から報告書作成に関して』  
(水戸部秀樹)  
第2回『関東系土師器と7世紀後半』(渡辺和行)

※新型コロナウイルス感染症対策のため中止とした。

③来所者

ア.見学・研修等

No	来所者	期 日	人数	内 容
1	埼玉県民	4月1日	2	施設見学
2	東北芸術工科大学 学生	5月17日	1	施設見学
3	第20回東日本古墳確立期の土器検討会	6月8日	15	研究会会場
4	大江町教育委員会 職員	6月17日	1	施設利用(出土遺物鑑定)
5	上山キャリアスタートウィーク	7月2～4日	5	職場体験
6	天童市民	7月8日	1	施設見学
7	最上義光歴史館 職員	8月21日	3	施設見学
8	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 職員	8月20～23日	2	施設利用(写真スタジオ・写真機材)
9	上山市民	8月22日	2	施設見学
10	茨城県民	9月17日	2	施設見学
11	東根市長瀬公民館	9月19日	16	施設見学
12	大阪府民	10月15日	1	施設見学
13	最上徳内記念館 職員	11月5日	1	施設利用(赤外線スキャナーによる遺物観察)
14	南陽市教育委員会 職員	12月10日	3	施設利用(写真スタジオ・写真機材)
15	米沢市教育委員会 職員	12月17日	4	施設利用(写真スタジオ・写真機材)
16	長井市教育委員会 職員	12月23日	2	施設利用(出土遺物鑑定)
17	大江町教育委員会 職員	1月14日	1	施設利用(写真スタジオ・写真機材)
18	寒河江市教育委員会 職員	1月29日	1	施設利用(出土遺物鑑定)
19	東北芸術工科大学 学生	2月13日	2	施設見学
20	寒河江市教育委員会 職員	3月12日	1	施設利用(出土遺物鑑定)

イ.図書閲覧

No.	来所者	期 日	閲覧目的
1	寒河江市民	8月14日	畑谷城・富沢城の文献調査
2	山形市教育委員会 職員	11月14日	文献調査
3	米沢市教育委員会 職員	12月17日	文献調査

ウ.資料調査

No.	来所者	期 日	対象遺跡
1	山形市民	5月28日	宮の前遺跡、釜淵C遺跡、作野遺跡
2	新潟県埋蔵文化財調査事業団 職員	6月27日	矢馳A遺跡、山田遺跡、助作遺跡、南原遺跡、三軒屋物見台遺跡、大夫小屋
3	明治大学黒耀石研究センター 客員研究員	8月2日	太郎水野2遺跡、高瀬山遺跡
4	山形市民	8月9日	下叶水遺跡、上竹野遺跡
5	山形県立博物館 職員	9月13日	鶴ヶ岡城跡、米沢城、山形城三の丸跡
6	仙台市縄文の森広場 職員	9月25日	清水西遺跡
7	台湾中央研究院地球科学研究所 研究技師	10月7日	宮の前遺跡、釜淵C遺跡、小反遺跡、下叶水遺跡、作野遺跡、上竹野遺跡
8	明治大学文学部 教員・学生	10月28日	高瀬山遺跡（HO）
9	東北学院大学文学部 教員・学生	11月19日	野田遺跡、下中瀬遺跡
10	慶応義塾大学 大学院生	11月30日	今塚遺跡、漆山長表遺跡
11	台湾中央研究院地球科学研究所 研究技師	12月23日	熊ノ前遺跡、吹浦遺跡、渡戸遺跡、野新田遺跡、
12	山形市民	12月23日	宮の前遺跡、砂子田遺跡
13	郡山市文化・学び振興公社 職員	1月22日	八反遺跡、下柳A遺跡、渋江遺跡、的場遺跡、板橋1・2遺跡、百刈田遺跡
14	郡山市文化・学び振興公社 職員	3月27日	馳上遺跡、向川原遺跡、三軒屋物見台遺跡、矢馳A遺跡、矢馳B遺跡

④調査説明会

No.	市町村	遺跡名	開催日	遺跡種別	参加者数
1	河北町	谷地城跡	7月20日	城館跡	150
2	新庄市	中関屋遺跡	8月10日	集落跡	50
3	酒田市	上曾根遺跡	11月9日	集落跡	40

⑤職員派遣等

No.	依頼者名	派遣場所	派遣職員名	期日	内容
1	中山町教育委員会	中山町中央公民館	伊藤 邦弘	4月24日	中山町文化財保護審議会
2	うきたむ考古友の会	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	大場 正善	5月12日	うきたむ考古友の会講演会 講師
3	山辺町教育委員会	山辺町役場	黒坂 雅人	5月16日	山辺町文化財保護審議会
4	独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所	駒澤大学駒沢キャンパス	水戸部秀樹	5月19日	考古学データサイエンスに関わる有識者会議
5	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	大場 正善	5月25日	勾玉・弓矢・石器をつくろう！ 講師
6	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	菅原 哲文	6月7日	特別テーマ展展示指導
7	舟形町教育委員会	舟形町中央公民館	齊藤 主税	6月12日	舟形町文化財保護委員会
8	山形県教育庁文化財・生涯学習課	山形県庁	植松 暁彦	6月18日	埋蔵文化財調整会議
9	山辺町教育委員会	山辺町役場	黒坂 雅人	6月19日	安達峰一郎博士顕彰会総会
10	舟形町教育委員会	舟形町内	齊藤 主税	6月20日	国・県指定文化財巡回指導
11	寒河江市教育委員会	寒河江市文化センター	高桑 登	7月3日	慈恩寺調査検討委員会での助言・指導
12	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	大場 正善	7月13日	勾玉・弓矢・石器をつくろう！ 講師
13	山辺町教育委員会	山辺町役場	黒坂 雅人	7月31日	山辺町文化財保護審議会研修会
14	大江町教育委員会	史跡左沢城跡発掘調査現場	高桑 登	7月28日	発掘調査現地説明会現地指導
15	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	菅原 哲文	7月14日	特別テーマ展関連講座 講師
16	山辺町教育委員会	山辺町役場	黒坂 雅人	7月31日	山辺町文化財保護審議会研修会
17	大江町教育委員会	史跡左沢城跡発掘調査現場	高桑 登	7月27日	発掘調査現地説明会現地指導
18	山形市教育委員会	山形市役所	高桑 弘美	8月9日	令和元年度第1回山形市文化財保護委員会
19	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	大場 正善	8月10日	スクールオブジョウモン 石器づくり講師
20	高島町教育委員会	高島町大字竹森姥ヶ作地内	大場 正善	8月21～22日	日向洞窟遺跡範囲確認調査現地指導
21	寒河江市教育委員会	寒河江市中央公民館	大場 正善	9月4日	市民講座寒河江さくらんぼ大学 講師

No.	依頼者名	派遣場所	派遣職員名	期日	内容
22	舟形町教育委員会	舟形町内	齊藤 主税	9月10日	令和元年度舟形町文化財保護委員会 研修会
23	日本旧石器学会	東京都埋蔵文化財センター	大場 正善	9月22日	石器製作に関する講座 講師
24	津南町教育委員会	津南小学校	菅原 哲文	9月29日	津南シンポジウムXV パネラー
25	山形県立うきたむ風土記 の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記 の丘考古資料館	植松 暁彦	9月29日	第21期考古学セミナー第1回 講師
26	山形県立うきたむ風土記 の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記 の丘考古資料館	水戸部秀樹	10月6日	第21期考古学セミナー第2回 講師
27	山形県教育委員会	山形県庁	高桑 弘美	10月10日	山形県文化財保護審議会
28	山形県立うきたむ風土記 の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記 の丘考古資料館	伊藤 邦弘	10月8日	令和元年度第1回運営協議会
29	山形県立うきたむ風土記 の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記 の丘考古資料館	菅原 哲文	10月13日	第21期考古学セミナー第3回 講師
30	天童市教育委員会	天童市大字天童字城山	高桑 登	10月17日	天童古城発掘調査現地指導
31	東北学院大学アジア流域 文化研究所	東北学院大学土樋キャン パス	大場 正善	10月19日	公開学術報告会 講師
32	村山市教育委員会	最上徳内記念館	大場 正善	10月26日	石器づくり実演 講師
33	天童市教育委員会	天童市大字天童字城山	高桑 登	10月27日	天童古城発掘調査現地説明会遺物解 説
34	長井市史編纂委員会	生涯学習プラザ	菅原 哲文	10月31日	令和元年度長井市史編集委員及び執 筆員による拡大編集委員会
35	山形県立うきたむ風土記 の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記 の丘考古資料館	大場 正善	11月3日	勾玉・弓矢・石器をつくろう！ 講師
36	明治地区文化祭実行委員 会	明治コミュニティセンター	天本 昌希	11月3日	明治地区文化祭講演会 講師
37	寒河江市教育委員会	寒河江市慈恩寺字上の寺	高桑 登	11月4日	第7回慈恩寺調査検討委員会
38	山形県立うきたむ風土記 の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記 の丘考古資料館	小林 圭一	11月17日	第27回企画展記念講演会 講師
39	独立行政法人国立文化財 機構奈良文化財研究所	独立行政法人国立文化財 機構奈良文化財研究所	水戸部秀樹	11月22日	文化財三次元計測課程 講師
40	山形県立博物館	山形県立博物館	高桑 登	12月1日	特別展記念講演会 講師

No.	依頼者名	派遣場所	派遣職員名	期日	内 容
41	屋代地区公民館	山形県立うきたむ風土記 の丘考古資料館	水戸部秀樹	11月28日	大人の社会科見学 講師
42	長瀬公民館・長瀬郷土史 研究会	長瀬公民館	高桑 登	1月26日	八反遺跡から見える長瀬の歴史講演 会 講師
43	独立行政法人国立文化財 機構奈良文化財研究所	独立行政法人国立文化財 機構奈良文化財研究所	水戸部秀樹	1月23日	文化財デジタルアーカイブ課程 講 師
44	山形県立うきたむ風土記 の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記 の丘考古資料館	伊藤 邦弘	2月4日	令和元年度第2回運営協議会
45	山形市教育委員会	山形市役所	高桑 弘美	1月28日	令和元年度第2回山形市文化財保護 委員会
46	日本旧石器学会	岩宿博物館	大場 正善	2月16日	石器製作に関する講座 講師
47	河北町教育委員会	総合交流センター サハトベに花	天本 昌希	2月22日	河北町の歴史講座 講師
48	山形市教育委員会	山形市役所	高桑 弘美	2月7日	山形市文化財保護委員会
49	古代城柵官衙遺跡検討会	大仙市グランドパレス	植松 暁彦	2月22～23日	特集報告口頭発表
50	独立行政法人国立文化財 機構奈良文化財研究所	福井市 A O S S A	高桑 登	2月27～28日	全国笏谷石研究会
51	舟形町教育委員会	舟形町中央公民館	齊藤 主税	2月28日	舟形町文化財保護委員会
52	中山町教育委員会	中山町中央公民館	伊藤 邦弘	3月25日	中山町文化財保護審議会

⑥資料貸出

No.	貸出先	借用目的	貸出期間	資料名	数量
1	山形県立上山明新館高等学校	日本史の授業の教材として	4月16日～4月18日	釜淵C遺跡、吹浦遺跡、宮の前遺跡、野新田遺跡、山居遺跡、砂子田遺跡	81
2	舟形町教育委員会	縄文の女神祭り及び舟形町歴史民俗資料館展示のため	4月17日～11月29日	西ノ前遺跡	67
3	山辺町立相模小学校	社会科学習の資料として使用	4月22日～5月10日	西ノ前遺跡、百刈田遺跡、高揃南遺跡	7
4	最上徳内記念館	企画展「発掘された村山 河島山の謎に迫る」に展示のため	10月10日～11月29日	西海淵遺跡、作野遺跡、八反遺跡、清水西遺跡	15
5	山形市立第二小学校	社会科学習のため	5月7日～5月14日	西ノ前遺跡、百刈田遺跡、服部・藤治屋敷遺跡、三軒屋物見台遺跡	7
6	山形大学附属小学校	社会科学習のため	5月14日～5月28日	熊ノ前遺跡、百刈田遺跡	6
7	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	企画展展示資料として	5月28日～9月13日	宮下遺跡	11
8	津南町教育委員会	秋季企画展の展示資料としてしようするため	7月16日～11月30日	吹浦遺跡、西海淵遺跡、野新田遺跡、上竹野遺跡	7
9	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	特別テーマ展の展示パネルに使用するため	5月27日	宮下遺跡	写真資料6
10	公益財団法人 致道博物館	「戦国の庄内」展示のため	8月2日～10月1日	亀ヶ崎城跡	6
11	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	企画展「縄文時代後期の山形」展示のため	8月20日～12月13日	川口遺跡、蕨台遺跡、渡戸遺跡ほか19遺跡	279
12	山形県立博物館	特別展「山形の城」において展示するため	10月4日～1月9日	鶴ヶ岡城、米沢城、山形城	30
13	山形県立上山明新館高等学校	歴産カフェ（第3回『縄文デザインの仕組みを探ろう！』で展示のため	10月17日～10月21日	吹浦遺跡、新山A遺跡、西海淵遺跡、中川原C遺跡	9
14	最上徳内記念館	企画展「発掘された村山 河島山の謎に迫る」に展示のため（追加）	11月1日～11月29日	八反遺跡	1
15	東根市長瀬公民館	『長瀬地区総合かりがね祭』で展示するため	10月23日～10月28日	八反遺跡	33
16	最上町教育委員会	第8回ワイルドエドベン チャースクールで使用するため	12月17日～12月23日	西ノ前遺跡	6
17	那須野が原博物館	企画展「縄文クロスロード・槻沢」における展示パネルに使用するため	2月1日～4月12日	小反遺跡	写真資料1

## ⑦資料掲載許可

No	許可先	借用目的	資料名	数量
1	株式会社敬文舎	佐藤宏之著『旧石器時代』に掲載のため	太郎水野2遺跡	1
2	産経新聞山形支局	新聞記事掲載のため	西海淵遺跡	2
3	山形県立博物館	特別展「山形の城」において、パネル展示及び広報チラシ・リーフレットに掲載するため	鶴ヶ岡城、米沢城	8
4	最上徳内記念館	企画展「発掘された村山 河島山の謎に迫る」展の広報のため	西海淵遺跡、作野遺跡、清水西遺跡、八反遺跡	15
5	株式会社吉川弘文館	平川南著『新しい古代史へ3 交通・情報となりわい』に掲載のため	上高田遺跡	1
6	村山市立図書館	村山市教育委員会発行予定の『鎌倉・室町時代の村山市』に掲載するため	白鳥館跡、八反遺跡	6
7	楯山郷土史愛好会	郷土史「ふるさとの記録－青柳－」に掲載するため	下柳A遺跡	10
8	北村山地域史研究会	「北村山の歴史19」に掲載のため	八反遺跡、沼袋遺跡	11
9	山形市民	山形考古49号に掲載のため	宮の前遺跡、作野遺跡	2
10	新潟県埋蔵文化財調査事業 団 職員	『日本考古学協会第86回総会研究発表要旨』に掲載のため	助作遺跡	1
11	山形県立酒田東高等学校	創立百周年記念誌」に掲載のため	亀ヶ崎城跡	3

## ⑧研究紀要

『研究紀要』第12号に掲載した論文の、タイトルと執筆者は以下の通りです。

- ・馬見ヶ崎扇状地における縄文時代の遺跡動態…………… 小林 圭一
- ・村山地域から出土した7世紀の土器…………… 渡辺 和行

## ⑨出版物

### ア.調査説明会資料

書名	発行年月日
谷地城跡発掘調査説明資料	2019年 7月20日
中関屋遺跡発掘調査説明資料	2019年 8月10日
上曽根遺跡 第3次発掘調査説明資料	2019年11月 9日

### イ.調査報告書

シリーズNo	書名	発行年月日
236	中関屋遺跡発掘調査報告書	2020年3月31日
237	東熊野苗畑遺跡発掘調査報告書	2020年3月31日
238	清水遺跡 第1～7・9次発掘調査報告書	2020年3月31日
239	羽黒神社西遺跡 第1・2次発掘調査報告書	2020年3月31日
240	山形城三の丸跡 第9・11・13・14・16・18・20・21次発掘調査報告書	2020年3月31日
241	谷地城跡発掘調査報告書	2020年3月27日

### ウ.その他

資料名	発行年月日
令和元年度 年報	2020年5月1日
研究紀要 第12号	2020年3月31日

## ⑩ホームページ

主な項目と内容は以下のとおりです。

- ・発掘調査遺跡一覧 発掘調査遺跡や整理作業中の遺跡の紹介
- ・発掘調査速報 調査期間中、遺跡ごとの調査状況を毎週更新して紹介
- ・整理作業トピックス 整理作業中の遺跡から、話題を取り上げて紹介
- ・イベント情報 埋蔵文化財センター考古学講座、調査説明会、各種イベント情報の提供
- ・センター刊行物案内 調査報告書、発掘調査説明資料などの刊行物等の紹介
- ・埋文やまがた Web版広報誌「埋文やまがた」の紹介、およびバックナンバーの閲覧とダウンロード
- ・センター概要 センターの紹介や、情報公開制度に基づいた、センター情報の提供

## (3) 情報処理

収蔵図書データベース 新収蔵図書1, 761冊のデータ入力実施(File Maker Pro使用)

---

ISSN 1341-397X

# 年 報

令和元年度

2020年5月1日 発行

発 行 公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター  
〒999-3246  
山形県上山市中山字壁屋敷5608番地  
TEL 023-672-5301(代)

---



Yamagata Archaeology Center

当センターの記章として  
いるこの図柄は、  
Yamagata  
Archaeology  
Center  
の3つの頭文字をあしらっ  
たものです。特にYは、国  
宝「縄文の女神」をイメー  
ジしています。